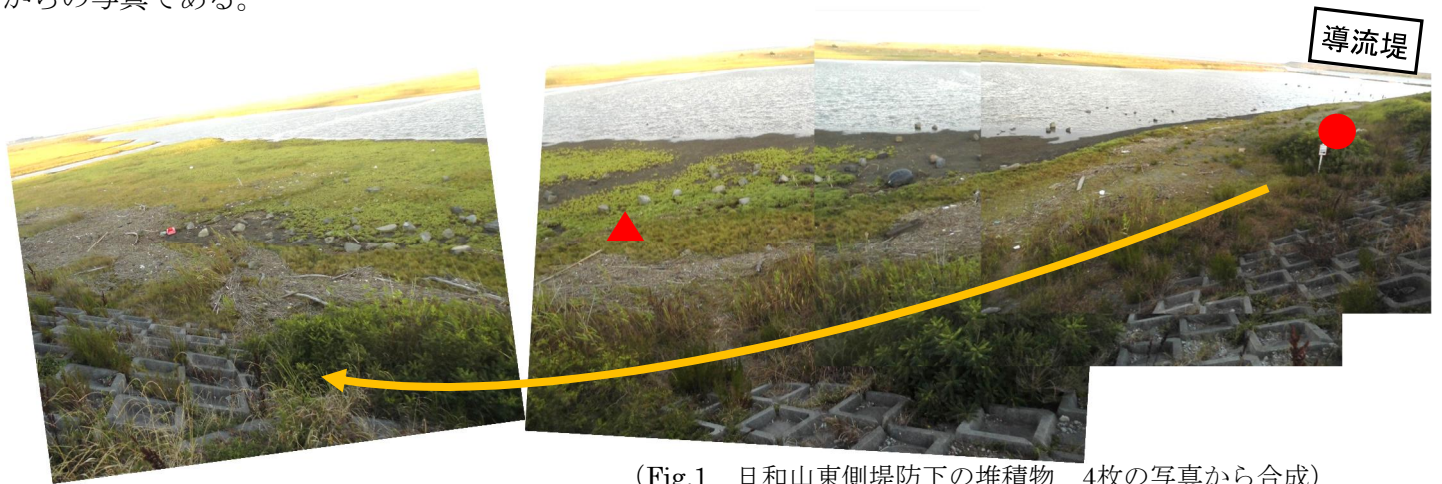


カムチャッカ半島沖地震による津波④

■残された堆積物等から考察する津波の様子 潟湖

7月30日8時24分に発生したカムチャッカ半島沖の地震により、宮城県にも津波が到達した。津波注意報が31日16:30に解除されたため、同日17:30頃から蒲生干潟で津波の痕跡を観察した。

観察した結果、津波が直接潟湖へ流入した様子は見られなかった（レポートNo.449参照）。Fig.1は日和山東側堤防下の写真である。堆積物が矢印のように、南から北へ流入したように見える。Fig.2はFig.1の▲からの写真である。



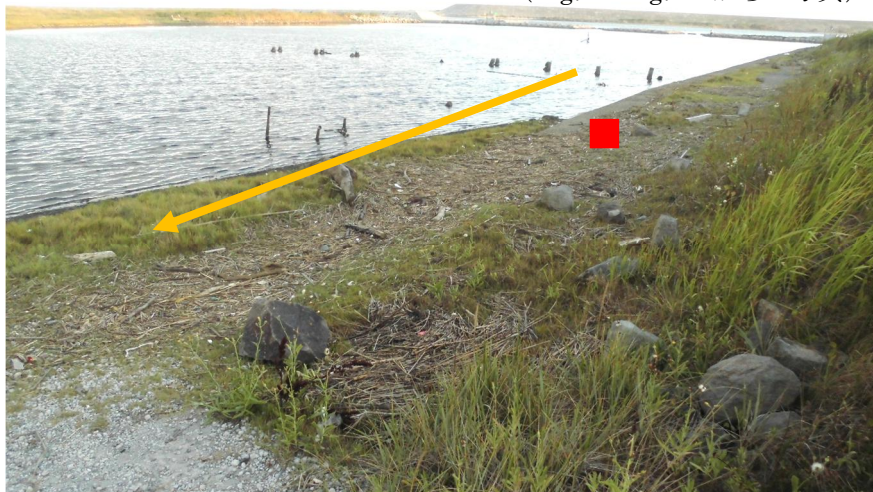
(Fig.1 日和山東側堤防下の堆積物 4枚の写真から合成)



(Fig.2 Fig.1▲からの写真)

Fig.3はFig.1の●付近の写真である。■の部分で護岸が終わっており、その付近から堆積物が流入したと推察される。津波は直接潟湖へは流入しなかったが、導流堤の通水部・水門を通過して入り込んだと思われる。

護岸の上に段差があるが、段差の上までは津波の物と思われる堆積物は到達していない (Fig.4)。



(Fig.3 Fig.1の●付近)



(Fig.4 潟湖護岸の段差上部)